

朝鮮独立運動100周年  
日韓聖公会公式交流35年を迎えるにあたって

今・和解と協働のために…

1919年2月8日  
東京・朝鮮人留学生独立宣言(東京朝鮮YMCA)

1919年3月1日  
朝鮮31独立運動



独立を求めて示威行動をする女子学生(1919 ソウル)

1919▶2019

日本聖公会 日韓協働委員会

## 三・一運動100年を迎えて

司祭 井田 泉

「吾らはここに我が朝鮮が独立国であり朝鮮人が自由民である事を宣言する。これを以て世界万邦に告げ、人類平等の大義を克明にし、これを以て子孫万代に告げ、民族自存の正当な権利を永久に保有させる。」(三一独立宣言書冒頭)

わたしの手元には1919年の三・一運動の際、民族代表として名前を連ねた33人の一人ひとりの写真に説明を付した掛け軸がある。これは私が親しくさせていただいていた在日2世の聖公会の信徒の方が京都から東京に転居されるに際して、私に託してくださったものである。これを見つめていると、当時の人々の苦しみ、祈り、情熱が伝わってくる気がする。そのおよそ半数はクリスチャンであった。

そのひとり申錫九(シンソック)(メソジスト教会の牧師)は、当初この運動に参加すべきかに迷い、毎日明け方ごとに祈って神のみ心を求めたという。彼は2月27日の明け方、このような声を聞いた。「4000年の間伝えてきた国土をお前の代に失ってしまったのは罪であり、見出すべき機会に見出そうと努力しないならば、いっそう罪ではないか」。こうして彼は運動に参加することを決意した。彼のみならず多くのクリスチャンは、日本の支配を脱して民族の自主独立と自由を取り戻すことが神の意思であり召命であると認識し、信仰的決断をもって参加したのであった。

自主、自由、秩序、非暴力を基本姿勢とした独立を求める運動は瞬く間に全土に広がり、日本の弾圧によって数知れぬ犠牲者を出した。韓国の聖公会に属する人たちの中にも、逮捕、投獄、拷問にさらされた人たちがいたことを、私は日韓聖公会の交流の中で何度か知らされた。

現在の大韓聖公会祈祷書(2004)の「特別祈願本祈祷(特祷)」には韓国固有の祝日の祈りが収められているが、その一つは「三一節」のものである。祭色は「紅色(赤)」と指定されている。

「主なる神よ、あなたは私たちをすべての悪しき勢力から救い出してください。願わくは、国の独立のために命をささげた先烈たちの高貴な業を繰り返し心に刻み、私たちをしてこの地に自由と平和を実現させ、再びわが民族が奴隷のくびきにつなげることがないようにお守りください。」

過去の聖書を今の私たちに語りかけてくる書、今とこれからの導きの書としてとして聞くのが信仰である。とすれば、100年前の独立運動の歴史から新しく聞き、そこから呼びかけてくる声に耳を傾けることは、私たちの未来に向かう信仰にとってかけがえのない営みである。

# 共同の祈り      공동기도

— 28独立宣言・31独立運動100年に際して —  
— 28독립 선언 · 31독립 운동 100년에 즈음하여 —

私たちの平和の源である全能の神よ。日本はかつて韓国を併合し、国土・文化・人・言葉を奪い、人々に多大な苦しみと屈辱を与えました。その歴史の中で、朝鮮の人々は1919年2月8日の東京の留学生による2.8独立宣言に端を発し、3月1日にはソウルから発せられた3.1独立運動を展開致しました。そして、その時から私たちは100年を覚える時を迎えようとしています。

日韓両聖公会が公式の交流を始めて35年となる2019年は両聖公会にとって大切な年です。この年が新たな和解と更なる交わりの第一歩となるように私たちをお導きください。

今、その時を迎えるにあたり、私たち日韓両聖公会が共に歴史と神の前に謙虚になり、神の赦しを乞い求めます。両聖公会が更なる交わりを深めようとする歩みの上に、あなたの望まれる平和を造り上げて行こうとする私たちに豊かな導きと祝福をお与えください。そして、私たちのこれからの歩みが私たち日韓のみならず、東アジアや世界にも広げることができますように。

父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン



ソウルのスラムにある大韓聖公会の  
分かち合いの家にある十字架

우리의 평화의 근원이신 전능하신 하느님. 일본은 과거 한국을 병합하여 국토, 문화, 사람, 언어를 빼앗고 사람들에게 깊은 고통을 주었습니다. 그 역사 속에서 조선의 민중은 1919년 2월 8일 도쿄의 유학생에 의한 2.8 독립 선언을 비롯하여 3월 1일에는 서울에서 시작 된 3.1 독립 운동을 전개하였습니다. 그리고 우리 들은 그때 부터 100년을 기억 하는 시간을 맞이하고 있습니다.

한일성공회가 공식 교류를 시작 해 35년이 되는 2019년은 양성공 회에게는 중요한 해 입니다. 올해 가 새로운 화해와 보다 두터운 친교의 첫 걸음이 될 수 있도록 우리 를 인도 하소서.

지금 그 때를 맞이하여 우리 한일성공회가 함께 역사와 하느님 앞에 겸손하게 하느님의 용서를 구하고자 합니다. 양성공회의 관계를 더욱 두텁게 하려는 발걸음 위에, 당신이 원하시는 평화를 쌓아가려고 하는 우리에게 풍성한 인도와 축복을 주소서. 또한 우리의 앞으로의 발걸음이 우리 한일뿐만 아니라 동아시아와 세계로 넓혀가게 하소서.

성부와 성령과 함께 일체로서 영원히 살아가게 하며 다스리시는 우리 주 예수 그리스도를 통하여 비나이다. 아멘

## 2.8 独立

朝鮮青年独立団はわが二千万の民族を代表し、正義と自由の勝利を得た世界万国の前にわが独立を期成せんことを宣言する。わが民族は四千三百年の長い歴史を有し、世界最古の民族の一つである。時には中国の正期を奉じたことはあったが、これは両国皇室の形式的な外交関係に過ぎなかった。朝鮮は常にわが民族の朝鮮であり、いまだかつて一度として統一国家であることを失い、異民族の実質的支配を受けたことはなかった。

日本は朝鮮が日本と唇齒の関係にあることを自覚していると称して、1895年清日戦争の結果率先して韓国の独立を承認した。イギリス、アメリカ、フランス、ドイツ、ロシアなどの諸国もまたみな独立を承認しただけでなく、これを保全することを約束した。韓国もまたその恩義に感じ鋭意諸般の改革をおこない、国力の充実を図ったのである。

当時ロシアの勢力が南下し東洋の平和と韓国の安寧を脅かしたので、日本は韓国と攻守同盟を結び、露日戦争をはじめたが、東洋の平和と韓国の独立はこの同盟の主旨であった。ここにおいて韓国はいよいよその好意に感じ、陸海軍の作戦上の援助はできなかったが、わが主権の威厳までも犠牲にしておよそ可能な限りの義務をつくり、東洋の平和と韓国独立の二大目的を追求した。

しかしその戦争が終結するにおよんで、当時のアメリカ大統領ルーズベルトの仲裁によって講和会議が開かれたが、日本は同盟国である韓国の参加を許さず、露日両国の代表は日本の韓国にたいする宗主権を任意に議定した。日本はその優越した兵力を恃み、韓国の独立を保全するという旧約に違反し、韓国皇帝および政府を脅かし、韓国の国力充実によって独立が得られる時期までという条件をおしつけて欺き、韓国の外交権を奪って、日本の保護国となし、韓国をして世界列国にたいし直接交渉する道を断たしめた。さらに相当の時期までという条件で司法・警察権を奪い、徴兵令実施までという条件で軍隊を解散し、民間の武器を押収して日本の軍隊と憲兵警察とを各地に配置した。甚だしきは皇宮の警備までも日本人の警察を使用するに至った。このようにして遂に韓国を無抵抗なものにしながら、わが明質な光武皇帝を放逐し、精神の発達が充分でない皇太子を擁立して利用し、日本の走狗をもっていわゆる内閣を組織し、ついに秘密と武力とをもって合併条約を締結した。ここにわが民族は建国以来半万年にして自己を指導し援助すると約束した日本軍閥の野心的政策の犠牲となった。実に日本の韓国にたいする行為は詐欺、暴力から出たものにし

て、このような詐欺による大きな成功は、まことに世界興亡史上特筆すべき人類の大恥辱といわねばならない。

かの保護条約を締結するとき皇帝と賊臣を除く数人の大臣はあらゆる反抗手段をつくり、その発表の後もわが国民はみな素手でもって可能な限り反抗した。司法・警察権が奪われ軍隊が解散されたときもまた同じく反抗した。こうして合併の際には、手中に寸鉄の武器をもたず、可能な限りの反抗運動を試みたが、精鋭な日本の武器により犠牲となったものは数知れない。以後10年間、独立を回復するための運動で生命を犠牲にしたもの、また数十万に達した。かの惨酷な憲兵政治のもとで、手足と口舌の自由を奪われながらも、独立運動は間断なくつづけられた。これらによってみても、韓日合併は朝鮮民族の意思ではないことを知らねばならない。このようにして、わが民族は日本軍国主義の野心家の詐欺、暴力のもとに民族の意思に反する運命におかれた。それ故に正義、人道をもって世界を改造するこの時にあたり、その匡正を求むることは当然の権利であり、また世界改造の主人公であるアメリカ、イギリスは保護と合併にたいし率先して承認をしたという理由によって、今日その旧悪を贖う義務がある。

また合併以来の日本の統治政策をみると、かの合併当時の宣言に反し、わが民族の幸福と利益を無視し、征服者が被征服者にたいするような古代の非人道的な政策を襲用し、わが民族にたいし参政権、集会・結社の自由、言論・出版の自由などを一切許さず、甚だしきは信教の自由、企業の自由に至るまでも拘束している。行政、司法、警察などの諸機関で朝鮮民族の私権さえも侵害しないものはない。

公的にも私的にもわが民族と日本人との間に優劣の差別を設け、わが民族には劣等の教育を施し、永くわが民族を日本人の使役者にしようとしている。歴史を書き改め、わが民族の神聖な歴史的、民族的伝統と威厳を破壊し、さらに凌辱を加えている。少数の官吏を除くほかは、政府の諸機関、交通、通信、兵備などの諸機関の全部あるいは大部分には日本人を使用し、わが民族に永遠に国家生活の智能と経験を得る機会を与えないようにしている。わが民族は、このような武断専制の不正、不平等の政治のもとでは、決してその生存と発展を享受することができない。それだけではない。人口過剰の朝鮮に無制限の移民を奨励し、土着のわが民族が海外に流離するのやむなきにいたらしめた。また政府の各機関はもちろん私設の諸機関にまでもことごとく日本人を使用し、一方ではわが国民に職業を失わせ、また他方で

# 宣言書

はわが国の富源を日本に流出せしめた。また商工業においても日本人に対してのみ特殊な便益を与え、わが民族にはその産業発展の機会を失わせている。このようにあらゆる方面でわが民族と日本人の間の諸般の利害は互いに相反し、その害を受くるものはわが民族である。故にわが民族は生存の権利のために独立を主張するのである。

最後に東洋平和の見地からみても、かの最大の脅威であったロシアはすでにその軍事的野心を放棄し、正義と自由にもとづき新国家の建設に従事している。中華民国もまた同様である。さらに今後国際連盟が実現すれば、再び軍国主義的侵略を敢行する強国はなくなるであろう。とすれば韓国併合の最大の理由はすでに消滅している。これより、もし朝鮮民族が無数の革命の乱をおこすとすれば、日本に併合された韓国は却って東洋平和を乱す禍根となるであろう。わが民族はただ一つの正当な方法によってわが民族の自由を追求する。もしこれが成功しなければ、わが民族は生存の権利のために自由な行動をとり、最後の一人に至るまで必ずや自由のために熱血をそそぐであろう。これがどうして東洋平和の禍根とならないであろうか。わが民族は一兵ももっていない。わが民族は兵力をもって日本に抵抗する実力はない。しかしながら、日本がもしわが民族の正当な要求に応じなければ、わが民族は日本にたいし永遠の血戦を宣布せざるを得ない。

わが民族は高度の文化をもってからすでに久しい。そしてまた半万年にわたる国家生活の経験をもっている。たとえ多年の専制政治の害毒と境遇の不幸がわが民族の今日を招いたものであるにせよ、今日より正義と自由とにもとづく民主主義的先進国の範に従い、新国家を建設するならば、わが建国以来の文化と正義と平和を愛好するわが民族は必ずや世界の平和と人類の文化にたいし貢献するであろう。ここにわが民族は日本および世界各国にたいして自決の機会を与えることを要求する。もしその要求が入れられなければ、わが民族はその生存のために自由な行動をとり、わが民族の独立を期せんことをここに宣言する。

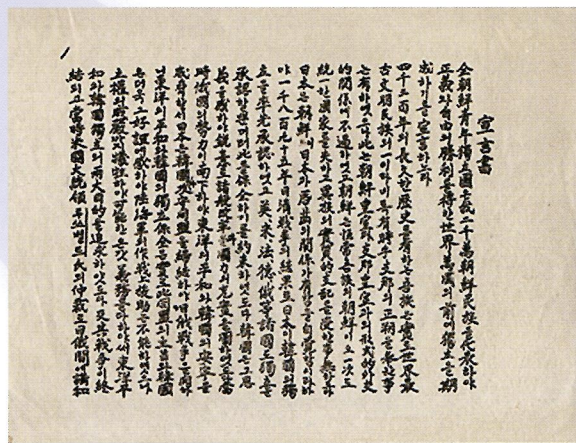
1919年2月8日

## 朝鮮青年独立団代表

崔八鏞	尹昌錫	金度演	李琮根
李光洙	宋繼白	金喆寿	崔謹愚
白寛洙	金尚徳	徐 棒	

## 決議文

- 一、 韓日合併はわが民族の意思によるものでなく、わが民族の生存と発展を脅かし、また東洋の平和を乱す原因となっている。それ故に本団は、わが民族の独立を主張する。
- 二、 本団は、日本の議会で政府にたいし朝鮮民族大会を召集し、その大会の決議をもってわが民族の運命を決定する機会を与えられんことを要求する。
- 三、 本団は、万国平和会議における民族自決主義をわが民族にも適用せんことを請求する。またその目的を達するために、日本に駐在する各国大使、公使にたいし、本団の意思を各自の政府に伝達することを要求する。同時に委員二人を万国平和会議に派遣し、わが民族全体の派遣委員と一致した行動をとる。
- 四、 以上の諸項の要求が不幸にも失敗すれば、わが民族はただ日本にたいし永遠の血戦をなすのみである。これによって生ずる惨禍についてわが民族はその責任を負わない。



2.8独立宣言書



2.8独立宣言を主導した留学生

# 3.1 独立

## (三・一) 己未独立宣

我らはここに我朝鮮が独立国であることと朝鮮人が自主民であることを宣言する。これをもって世界万国に告げ人類平等の大義を克明にし、これをもって子孫万代に教え民族自存の正当な権利を永久に保有させる。半万年歴史の權威によってこれを宣言し、二千万民衆の誠忠を合わせてこれを布明し、民族の恒久一の如き自由発展のためにこれを主張し、人類的良心の発露に基因する世界改造の大機運に順応併進するためにこれを提起するものである。これは天の明命、時代の大勢、全人類共存同生権の正当な発動であり、天下何者といえどもこれを阻止抑制することはできない。

旧時代の遺物としての侵略主義、強権主義の犠牲となり有史以来数千年で初めて異民族に束縛される痛苦を嘗めてからここに十年が過ぎた。我が生存権が剥奪されたのはどれほどか、心霊上発展が障礙されたのはどれほどか、民族的尊栄が毀損されたのはどれほどか。

噫旧来の抑鬱を宣暢しようとするれば、時下の苦痛を擺脫しようとするれば、将来の脅威を芟除しようとするれば、民族的良心と国家的廉義の圧縮銷残を興奮伸張しようとするれば、各個人格の正当な発達を遂げようとするれば、可憐なる子弟に苦恥的財産を遺与しないようにするならば、子々孫々の永久完全なる慶福を導迎しようとするれば、最大急務は民族的独立を確実にすることである。二千万各個人が方寸の刃を懐にし、人類の通性と時代の良心が正義の軍と人道の干戈とで護援する今日、我が進んで勝ち取るのにどんな強さが挫かせられるだろうか、退いて作すのに何の志が展するだろうか。

丙子修好條規以来時々種々の金石盟約を食んだとして、日本の信の無さを罪しようとするものではない。学者は講壇で、政治家は実際に我が祖宗世業を植民地視し、我が文化民族を土味人遇し、ただ征服者の快を貪るだけで、我が久遠の社会基礎と卓越する民族心理を無視するものとして、日本の義の少なさを責めようとするものではない。自己を策励することに急ぐ我は他を怨尤する暇はない。現在を網繆することに急ぐ

我は宿昔を懲弁する暇はない。今日我の所任はただ自己の建設にあるだけで、決して他を破壊することにあるのではない。厳肅な良心の命令によって自家の新運命を開拓しようとするものであり、決して旧怨や一時的感情によって他を嫉逐排斥するものではない。旧思想、旧勢力に覇靡されている日本為政者の功名的犠牲である不自然で不合理な錯誤状態を改善匡正して、自然で合理的政経の大原に帰還させようとするものである。当初民族的要求に出されない両国併合の結果が、畢竟姑息的威圧と差別的不平と統計数字上虚飾の下で利害相反する両民族間に永遠に和同することのできない怨溝を去益深造させた今來実積をみよ。勇明果敢をもって旧誤を廓正し真正な理解と同情とを基本とする友好的新局面を打開することが、彼と我が間の遠禍召福の近道であることを明知すべきではないだろうか。二千万含憤蓄怨の民を威力で拘束することは東洋の永久の平和を保障する理由にならないだけでなく、これによって東洋安危の主軸としての四億万中国人の日本に対する危懼と猜疑を濃厚にし、その結果として東洋全局の共倒同亡の悲運を招致することは明らかである。今日我の朝鮮独立は朝鮮人に正当な生栄を遂げさせると同時に、日本を邪路から出て東洋支持者としての重責を全うさせ、中国に夢にも逃れられない不安恐怖から脱出させ、東洋平和に重要なる一部をなす世界平和、人類幸福に必要な階段とさせるものである。これがどうして区々たる感情上の問題なのであろうか。

ああ新天地は眼前に展開された。威力の時代は去って道義の時代が来た。過去全世紀に錬磨長養させられた人道的精神は、今や新文明の曙光を人類の歴史に投射し始めた。新春は世界に来て万物の回蘇を催促しつつある。凍氷寒雪に呼吸を閉蝟したのも一時の勢いとすれば和風暖陽の気脈を振舒するのも一時の勢いであり、天地の復運に際し世界の変潮に乗じた我はなんらの躊躇なく、なんら忌憚することもない。我に固有の自由権を護全し生旺の樂を飽享し、我に自足の独創力を

# 宣言書

宣言文(1919年3月1日)

を發揮し春滿てる大界に民族的精華を結紐すべきである。

我らはここに奪起した。良心は我と同存し、真理は我と併進する。老若男女は陰鬱な古巢から活甦に起来して、万彙群象とともに欣快な復活を成し遂げる。千百世祖靈は我らを陰佑し、全世界氣運は我らを外護する。着手はすなわち成功であり、前頭の光明に驀進するのみである。

朝鮮建国4252年3月1日 朝鮮民族代表

孫秉熙	吉善宙	李弼柱	白龍城	金完圭
金秉祚	金昌俊	權東鎮	權秉憲	羅龍煥
羅仁協	梁甸伯	梁滿默	劉如大	李甲成
李明龍	李昇薰	李鍾勳	李鍾一	林禮煥
朴準承	朴熙道	朴東完	申洪植	申錫九
吳世昌	吳華英	鄭春洙	崔聖模	崔麟
韓龍雲	洪秉箕	洪基兆		

## 公約三章

- 一、 今日我らのこの行動は正義、人道、生存、尊栄のための民族的要求であり、自由的精神を發揮するものであり、決して排他的感情に逸走してはならない
- 一、 最後の一人まで、最後の一時まで民族の正当な意思を快く発表せよ
- 一、 一切の行動は秩序を最も尊重し、我の主張と態度をあくまで光明正大とすること



3.1 独立宣言書



タブコル公園(ソウル)での宣言文朗読

## 【28独立宣言】

1910年8月28日、韓国併合条約により朝鮮は日本の植民地になりました。そして1945年8月15日、日本の敗戦までの36年間の植民地支配が続きます。

植民地を前後して朝鮮から多くの留學生が日本に学びにやってきました。

1918年、第1次世界大戦後アメリカ大統領のウィルソンは民族自決主義を唱えられるなど、植民地の人々は独立への思いを高めました。

1919年2月8日、在日本東京朝鮮YMCA（現在の在日本韓国YMCA）に集まった数百名の朝鮮からの留學生は日本語と英語に訳された独立宣言文、決議文を採択し日本の議会、各国大使、言論機関等に送付しました。

集会では独立団代表11名の署名入り独立宣言文が満場一致で採択されました。しかし警察官たちが乱入し、検挙が始まり、宣言署名者のうち、朝鮮本土に向かった2名を除く9名が逮捕されました。その後も、東京、大阪などで第二、第三の運動が継続されました。この「事件」は、日本国内はもちろん、海外でも報道され大きな波紋を呼びました。また宣言文はソウルにも伝えられ、3.1独立運動を引き起こす導火線となりました。この時、朝鮮からの留學生の弁護を行った布施辰治弁護士や吉野作造、内村鑑三などが留學生、東京朝鮮YMCAと共に歩み平和と人権を希求した人々が民族を越えて結ばれていたことは覚えておきたいと思います。



28独立宣言が発表された東京朝鮮YMCA (1919年当時)

## 【31独立運動】

3月1日、民族代表33名が独立宣言を発表しました。33名の多くはクリスチャンであることはよく知られています。その日、大韓聖公会ソウル大聖堂前の徳寿宮前広場には多くの人々が独立万歳を叫び高らかに民族の独立を謳いあげました。東京での28独立宣言を受けて歴史に燦然と輝くこの独立運動は非暴力・不服従の闘いでした。31独立運動は中国の国境から南は済州島まで全土に及びました。しかし日本は軍警を動員して暴力的な弾圧でもって応じました。この犠牲者は6000名になるといわれています。

聖公会の信徒もその闘いに参加しました。大韓聖公会の元全国オモニ連合会会長の洪曼姫（ホン・マニ）さんのお父さんも示威行動に参加、逮捕され1年間獄中生活を余儀なくされました。



31独立運動で殉教した柳寛順

大阪の聖ガブリエル教会を創設した張本榮司祭も学生として参加し、逮捕・投獄されています。

ソウルの南に行った、聖公会の並川（ピョンチョン）教会では密かに独立宣言を印刷しました。又メソジストの堤岩里（チェアムニ）教会では村人が教会堂に入れられて外から火がつけられるという悲劇もありました。この地域ではクリスチャンが多く独立運動に参加したことに対する報復であったのです。

31独立運動は全民族的なものでした。当時の朝鮮はクリスチャン人口が2%程度であったにもかかわらず逮捕者は17%がクリスチャンでした。その役割はとて大きなものだったのです。

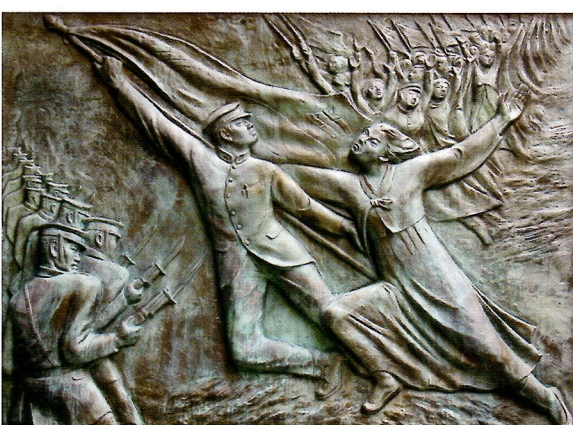


独立を求める人々(1919年ソウル)

## 【31運動その後＝解放】

31運動を経て日本は武力支配から文化支配に移行します。しかしそれは朝鮮人の魂を奪い取るのが目的でした。そして1930年代から本格的にアジア侵略に突き進み戦争が始まると日本は朝鮮人に日本的な名前を強要する「創氏改名」を実施し、更に日本やアジア各地での強制労働、女性たちを従軍慰安婦（日本軍性奴隷）として狩り出しました。これが現在の日韓の間にある「歴史認識」として大きな問題になっています。特に歴史認識に端を発してここ10年ほどは在日韓国朝鮮人に対するヘイトスピーチが大きな問題になっています。

更に南北に分断されたもう一つの国の朝鮮民主主義人民共和国とは未だに国交を結んでいません。私たちが住む東北アジアが真の和解と共生の道を歩むためには「過去に目を閉ざさずに」（1985年西ドイツ・ワイツゼッカー大統領）、まっすぐに歩むことが求められています。



ソウル・タプコル公園にある31独立運動レリーフ

# 日韓聖公会の交流

1965年日韓条約締結以降、東京教区の「相互責任・相互依存委員会(MRI委員会)におけるソウル教区との交わり、釜山教区成立後のBTプロジェクトによる人的物的支援、九州教区と大田教区との姉妹教区関係の締結などそれぞれの地域での関係が深まる中、日韓聖公会宣教協働は1984年「第1回日韓宣教セミナー」により正式に始まりました。日韓宣教セミナーは10年間に5回開催され、「相互理解」「わたしは主に罪を犯しました。-両国聖公会の歴史をかえりみて」「教会成長と社会正義の関係」「大韓聖公会100周年と宣教第2世代の課題」「サルリム(生かし合い)のための分ち合いの実践」という主題が示す通り日韓の歴史的反省と信仰的和解と赦しの道を探る道りでした。この間の協働の実りとして、1992年に韓国朝鮮人会衆の聖ガブリエル教会の復興と聖公会生野センター、こひつじ乳児保育園の竣工というお恵みが与えられたのです。

1994年に日韓聖公会宣教セミナー合同評価会が釜山で開かれ、その成果として、日韓青年の交流を通して新たな日韓協働の道を歩むため「第1回日韓青年ワークキャンプ」が始まり、これは現在も「日韓青年セミナー」と名前を変えて青年の視点から両聖公会の宣教課題の分かち合い、共に宣教の担い手として、それぞれに、また一緒に、何をしていけるのか、問い続ける歩みを力強く続けています。また、同年には中部教区とソウル教区の姉妹関係の締結が行われました。現在は東北教区と大田教区が姉妹教区として交わりと協働を続けています。

1996年には日本聖公会第49(定期)総会において「戦争責任に関する宣言」が決議され、それまでのさまざまな学び、交わり、働きがこれに結びついたと言えるでしょう。



第1回日韓聖公会青年キャンプ(1995年 神戸)

2004年には「日韓聖公会宣教協働20周年記念大会」を福岡で開催、「共同声明」が採択され、これに基づいて両聖公会は、日韓青年セミナー・社会宣教韓国スタディーツアー・世界聖公会平和協議会の開催、そして韓国人宣教協働派遣事業などに取り組んできました。この大会で約束された10年間の活動を10年後に評価することの実践として、2014年に済州島において「韓日聖公会宣教協働30周年記念大会」が開催されました。この大会では東アジアにおける両聖公会の役割、さらなる相互理解と宣教協働に取り組むことが決意さまし。現在、私たちはこの大会で採択された「日韓聖公会宣教協働30周年大会共同声明」を掲げ、宣教協働40周年に向けて歩を進めています。日韓青年セミナーは20回目が2018年8月に韓国の天安市竝川地域およびソウルで開催されました。また、韓国人宣教協働派遣事業により多くの韓国人聖職者が私たちと信仰の歩みをともにして下さっています。女性同士の協働も日本聖公会女性デスクやジェンダープロジェクトと大韓聖公会の両性平等局等の担当者レベルでの交わりが進んでいます。この日韓協働を通じて導かれ培われた多くの方々も両聖公会のさまざまな分野で活躍されています。

両聖公会を取り巻く状況は韓国では南北統一への道、日本では憲法9条やヘイトスピーチの問題、また共通の課題としての基地問題・原発問題、さらには竹島(韓国名:独島)や日韓請求権協定を巡る摩擦など、ずっとここにある課題と新しい課題があり、日本社会は未だ日韓の歴史を十分に理解しているとは言い難い状況にあります。しかし多くの信仰の先輩が主イエスのみ跡を踏みつつ歩まれた道を、ことに懐かしい野村潔司祭が私たちの前を歩まれた道を40周年へ向けて、そしてさらにその先へ、聞き合い、学び合いながら祈りの友としてこれからも共に歩んでいきたいと思えます。



2016年日韓聖公会青年セミナー(中朝国境白頭山頂上天地にて)

# 聖ガブリエル教会の復興と 聖公会生野センター

## 【日本聖公会と朝鮮人会衆＝聖ガブリエル教会】

現在、大阪に聖ガブリエル教会がありますが、戦前には東京、大阪、下関に朝鮮語での礼拝がありました。しかし現在その詳しい資料は残っていません。

聖ガブリエル教会の歴史を振り返りましょう。創設者の張本榮司祭は1900年に朝鮮で生まれます。31独立運動に参加し、官憲に逮捕され6ヶ月拘束されその後、立教大学で学びます。1923年関東大震災で朝鮮人虐殺を目の当たりにし、奈良に行きます。奈良基督教会の吉村長老に命の危機を救われました。それを契機に聖職の道を歩みますが決して平坦ではありませんでした。1925年に大阪で朝鮮人会衆の集会を始めます。宣教は順調に進み今の大阪生野の地に教会を設立しましたが太平洋戦争の勃発と共に教会は閉鎖、張執事

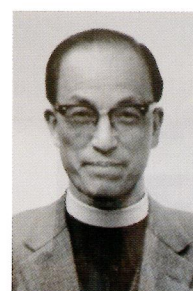


戦前の聖ガブリエル教会



大阪聖愛教会にて共に礼拝を守る(1950年)

(当時)も拘束・拷問を受けます。戦後も教会の復興は苦難の道でした。張司祭が司祭接手を受けたのは1956年、実に神学校卒業から31年が経っていました。1966年に張司祭が天に召された後、家族が中心となり教会を守ってきました。



聖ガブリエル教会を創設した張本榮司祭

## 【教会の復興と聖公会生野センター開設】

1984年、第1回の日韓聖公会セミナーが開催されたときに韓国側から聖ガブリエル教会の復興の話が出されました。これから日韓聖公会の協働によりプロジェクトが始まり1992年現在の場所に教会は再建されました。と同時に地域に奉仕するこひつじ乳児保育園の開園と地域活動をにう聖公会生野センターの開設もされたのです。

活動が進むにつれて手狭になった聖公会生野センターは2008年に現在の場所に移転しました。聖公会生野センターにとって聖ガブリエル教会は「母教会」といえるでしょう。

聖公会生野センターは管区・大阪教区と連携をしつつ現在はNPO法人として在日高齢者、障がい者の居場所、生野地域での街作り、日韓交流と幅広い活動を続けています。

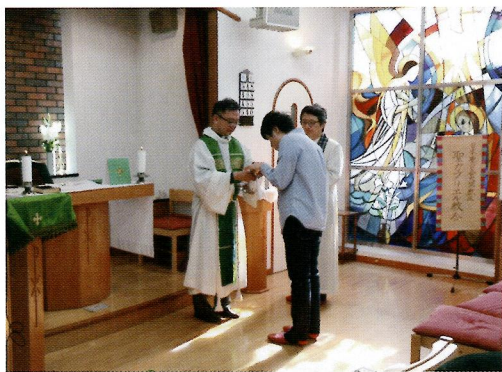




第1回日韓聖公会宣教セミナー(1984年ソウル)



聖ガブリエル教会移転感謝平和礼拝(1989年)



聖ガブリエル教会礼拝(2018年)



張本榮司祭逝去50周年礼拝(2017年)



日韓聖公会30周年記念大会でパフォーマンスをする日韓青年(2014年済州島)



日韓聖公会青年セミナー(2010年長崎)